

## GC/MS による N-ニトロソフェンフルラミンの分析について

当所において行った、GC/MS による N-ニトロソフェンフルラミンの分析について以下に示します。

### 【GC 条件】

装置：島津 GCMS-QP5050

気化室温度：230      インターフェース温度：230

カラム：OV-1701 ( 0.30  $\mu\text{m}$  df  $\times$  0.25 mm i.d.  $\times$  25 m , GL Sci. )

キャリアガス：He (75 kPa)      カラム流量 1.2 mL/min      スプリット

カラム温度：100 (10 min 保持)      150 ( 3 /min)      230 ( 5 /min)

注入量 1  $\mu\text{L}$

### 【試料溶液の調製】

カプセル中の粉末 0.05 g を精密に量り、ジエチルエーテル 5 mL を加え、10 分間振とう抽出を行う。遠心分離後、上澄液を試料溶液とする。

### 【結果】

次ページに、クロマトグラムおよびマススペクトルを示す。

フラグメント化が進み、分子イオンピーク ( $m/z$  : 260) は小さく、条件によっては検出されない。それゆえ、標品が無い場合には、LC との併用で確認することが望ましい。

